

- ①話す、聞く力を伸ばす言語活動を取り入れた授業展開の充実
- ②学校と家庭の役割分担による家庭学習習慣の確立
- ③読書習慣の確立と読書時間・読書量の確保

(1)基礎的・基本的な知識・技能の習得

児童生徒の状況	具体的目標(目指す子供の姿)	成果指標	中間期の見直し	取組状況	達成状況
よさ 漢字・計算については、まじめに学習に取り組み、基礎学力が定着しつつある。	読み・書き・計算の基礎的・基本的な知識・技能を身につけることができる。	学期末の校内漢字・計算テストにおいて正答率80%以上にする。	・漢字の学習について、新聞を使いながら言葉を見つけたリ、熟語を作ったりと楽しくゲーム性をもたせながら学習させるようにする。 ・ビジョントレーニング等の集中力を向上させる取組を授業の中に取り入れる。 ・教材・教具を工夫して、より分かりやすい授業を行う。	・朝の時間や国語・算数の授業の初めに復習の時間を設け、プリントを行うことで基礎的な知識・技能の習熟を図っている。 ・ITCを活用したり具体物で示したりと、視覚的に分かりやすい授業作りに努めている。	・全体としては、目標の8割を達成することができた。 ・学期ごとに正答率が伸びてきている。 ・正答率に開きがあり、漢字の習熟が不十分な児童もいる。
課題 個人差があり、定着に課題がある。個人のつまずきを把握し、個に応じた指導や家庭学習を充実させる必要がある。	朝の活動(ドリル・読書・音読)、放課後のプリント学習等で既習内容の習熟を図る。	漢字、計算の確認テストを適宜行う。		評価 A	次年度における改善事項 ・引き続き、各学年の学習内容を確実に習得できるよう反復して学習できるようにする。 ・よりよい授業を実践できるよう研修を重ねる。 ・個別の力の差に応じて、必要な支援が行えるようにする。

(2)知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況	具体的目標(目指す子供の姿)	成果指標	中間期の見直し	取組状況	達成状況
よさ 体験活動に意欲的に取り組む。発表や表現活動に進んで取り組む。	学年の発達段階に応じ、聞く力や話す力を身に付け、考えを深めることができる。	学期末にアンケートを行い、「友達の意見を聞いて、自分の考えを伝えることができた」と答える児童の割合を80%以上にする。	・授業の中で、自力解決と練り上げの時間を確実に設け、児童の思考力をのばせるようにする。 ・実験的な活動の前には、予想する時間を設定し、結果と予想を比較する中で、考えを深めさせる。 ・授業で学んだことと実生活を結びつけながら達成感のある授業作りを行う。	・校外学習や異学年で行う学習では、感想や感謝の思いを伝える場を必ず設け、自分の思いを表現する力を育成している。 ・授業の中で、ペア・グループで話し合う時間を設けるようにし、考えが深まるよう努めている。	・アンケート結果は約70%であるが、昨年度より数値は上がっている。 ・話し合いの場面で、自分の思いを表現する力が身につけている。
課題 他者の意見を聞き、自分の考えを広めたり深めたりする力に課題がある。	各教科やふるさと学習、異学年間や校種間交流(保・小・中・高)の活動の中で、話し合い活動や表現活動を意図的・計画的に設定し、「話す・聞く」「表現する」力の育成に取り組む。	アクティブ・ラーニングを取り入れ、考えをまとめたり発表したりできる場を1日1回以上設定する。		評価 B	次年度における改善事項 ・これからも校外学習等で学校外の人と触れ合う機会を大切に、実際の場で児童が表現できたことを評価するようにする。 ・臨機応変に場面に合わせて思いを表現できる児童を育成できるようにする。

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況	具体的目標(目指す子供の姿)	成果指標	中間期の見直し	取組状況	達成状況
よさ 素直で意欲をもって学習に取り組むことができる児童が多く、課題の提出率も高い。	家庭学習や苦手な課題について、自分から取り組むことができる。	チェックカードにおいて、「自主勉強ができた」と答える児童の割合を85%以上にする。	・、学年に応じた学習規律を明示した「学習の手引き」を作成し、小学校の6年間を見通した学習態度の育成を図る。 ・「自主学習の手引き」を作成し、自主学習の仕方や、自主学習ノートの書き方などを例示する。オープンスクールで児童や保護者に自主学習ノートを提示する機会を設け、児童が意欲的に家庭学習に取り組めることができるようにする。	・「家庭学習がんばりチェックカード」を毎月確認している。 ・担任や図書委員会からおすすめの図書を紹介したり本や新聞を用いたゲームを行ったりしている。 ・「家庭学習の手引き」や「上勝っ子スタンダード」を見直し、全校で共通認識をもって学習習慣の定着を目指している。	・「自主勉強ができた」と答える児童の割合は60%だった。 ・読書冊数の目標は概ね達成できているが、家庭での読書時間は増加していない。 ・自主学習では、学習内容が固定化されており、自分に合わせた内容が十分選べていない。
課題 ・宿題など与えられた課題はできるが、それ以外の自主的な学習では、内容が乏しかったり学習時間が学年相応ではなかったりする児童もいる。 ・家庭での読書習慣が定着しておらず、読書時間、読書量が少ない。	①「家庭学習の手引き」「家庭学習がんばりチェックカード」を活用して家庭と連携を図りながら、自主的な家庭学習の習慣化につなげる。 ②「読書マラソン」を実施し、読書強化週間を設けるなど、読書の時間を確保する。	①毎月1回、1週間家庭学習状況のチェックをする。 ②下学年は月8冊以上、上学年は月3冊以上の読書量を目指す。		評価 B	次年度における改善事項 ・家庭での読書時間が増加できるよう、図書室の環境を改善したり、スピーチの内容を本に関するものにする。 ・自分のめあてをもって、自主勉強に取り組めるようにする。 ・読書・自主勉強共に、児童の努力が視覚的に分かるようにし、児童の意欲を高められるようにする。

平成30年度 学力向上ロードマップ

